

令和4年度 南部町病院事業会計決算の概要

R5.8

1 決算の概況

- 令和4年度の病院事業会計決算は、新型コロナウイルス感染症に対する発熱外来や入院協力医療機関としての入院受入など、新興感染症に対する町立病院としての役割を果たした結果、総収益が23億9,436万5千円、総費用が23億5,078万4千円となり、4,358万2千円の黒字を計上し、令和3年度に続き2年連続の黒字決算となった。
- 総収益は23億9,436万5千円となり、前年度から2,383万4千円増加した。
 - ・ 医業収益…入院収益は増加したが、救急医療に係る町負担金の減少により331万円の減少
 - ・ 医業外収益…他会計補助金(新型コロナ空床確保補助金)等により2,719万4千円の増加
- 総費用は23億5,078万4千円となり、前年度から2,809万円増加した。
 - ・ 医業費用…経費は減少したが、給与費、減価償却費の増加により5,764万2千円の増加
 - ・ 医業外費用…企業債利息および仮受け仮払い消費税の影響により2,955万2千円の減少
- 減価償却費等の現金移動を伴わない経費や収益を除いて、さらに資本的収支補填額等の損益計算外の費用を差し引いた実質収支(資金収支)は、前年度比で1,733万7千円改善し、4,634万4千円の黒字となった。

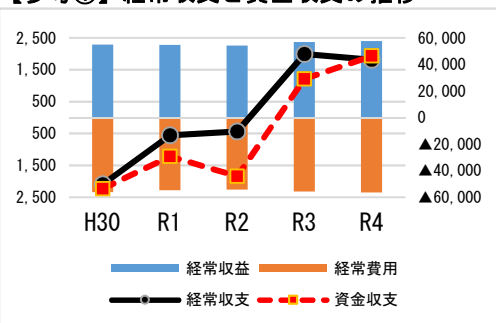
(単位：千円)

		令和4年度	令和3年度	対前年
総収益	A	2,394,365	2,370,531	23,834
経常収益	B	2,394,365	2,370,481	23,884
医業収益	C	1,716,097	1,719,407	▲3,310
医業外収益		678,268	651,075	27,194
特別利益	D	0	50	▲50
総費用	E	2,350,784	2,322,694	28,090
経常費用	F	2,350,784	2,322,694	28,090
医業費用	G	2,240,124	2,182,481	57,642
医業外費用		110,660	140,212	▲29,552
特別損失	H	0	0	0
医業収支	C-G	▲524,027	▲463,074	▲60,952
経常収支	B-F	43,582	47,788	▲4,206
特別損益	D-H	0	50	▲50
総収支	A-E	43,582	47,838	▲4,256

主な増減の要因

入院収益+31,147、外来収益▲3,117
他会計補助金+26,517
固定資産売却益▲50
給与費+23,402、経費▲6,065、減価償却費+47,436
企業債利息▲3,186

【参考①】経常収支と資金収支の推移



経常収支と資金収支について

病院事業会計では発生主義を採用していることから、損益計算書上の経常収益と経常費用の差引である経常収支の額と、実際の現金の差引である資金収支の額は一致しません。
令和3年度以降、へき地医療拠点病院に係る不採算地区中核病院の交付税が増加したことと、医療機器の更新に10割補助金を活用したこと等により、令和4年度経常収支は4,358万2千円となり、実際の現金の差引である資金収支は4,634万4千円の黒字となりました。

2 収益の状況

(1) 入院

- ・ 入院収益は、年間を通じて新型コロナ患者を受け入れたことにより3A病棟の診療単価が大きく増加し、全体で3,114万7千円増加した。
- ・ 患者延数は、4階病棟の稼働率低下の影響が大きく、全体で2,282人減少した。

	入院収益 (千円)		患者延数 (人)		診療単価 (円)		稼働率 (%)	
		対前年		対前年		対前年		対前年
3A	499,211	50,345	12,833	▲44	38,901	4,043	71.8%	▲0.2%
3B医療	210,581	7,801	10,146	346	20,755	63	86.9%	▲2.6%
3B介護	64,149	▲7,573	4,920	▲466	13,038	▲278	74.9%	1.1%
4階	221,044	▲24,016	13,256	▲1,856	16,675	459	72.6%	▲10.2%
5階	200,099	4,590	13,593	▲262	14,721	610	76.0%	▲1.5%
全体	1,195,084	31,147	54,748	▲2,282	21,829	1,420	75.8%	▲3.2%

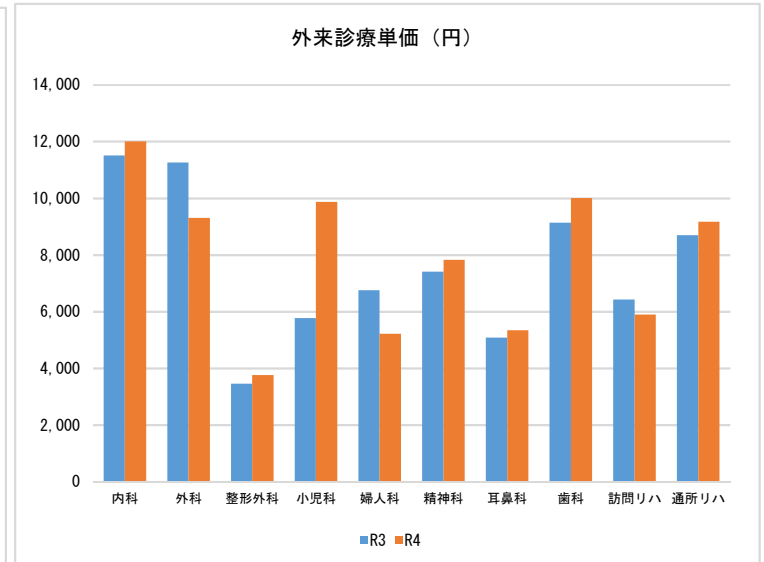
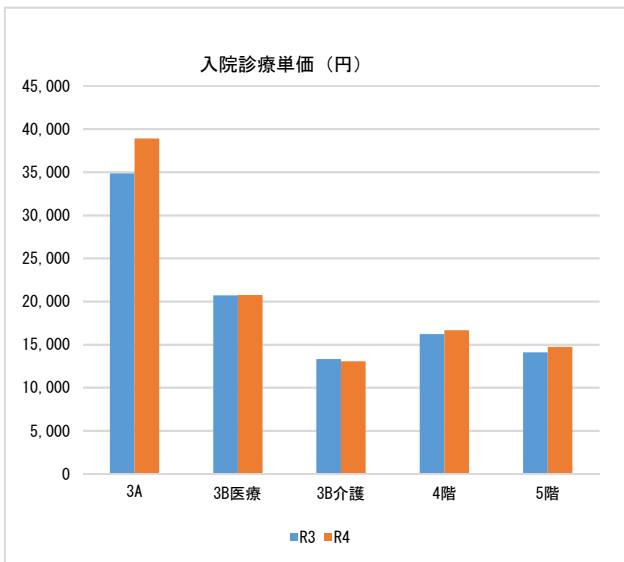
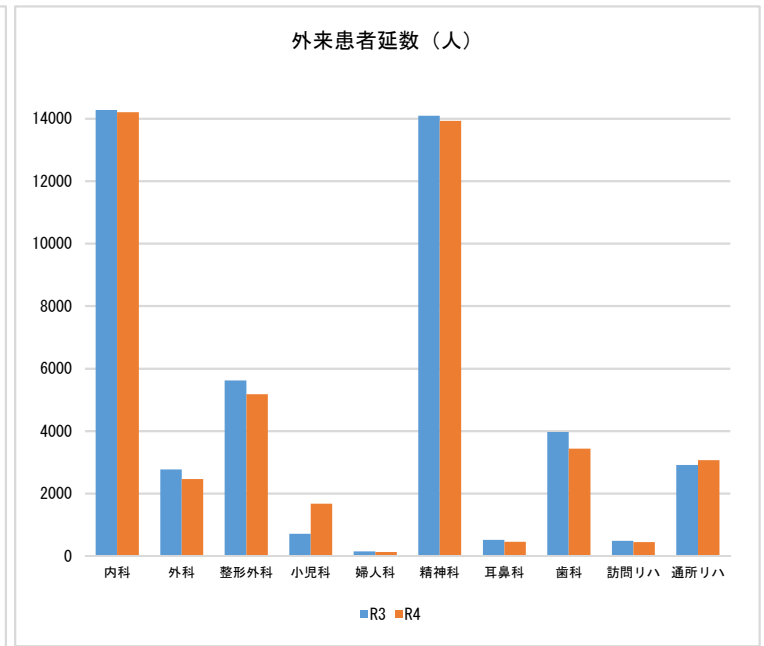
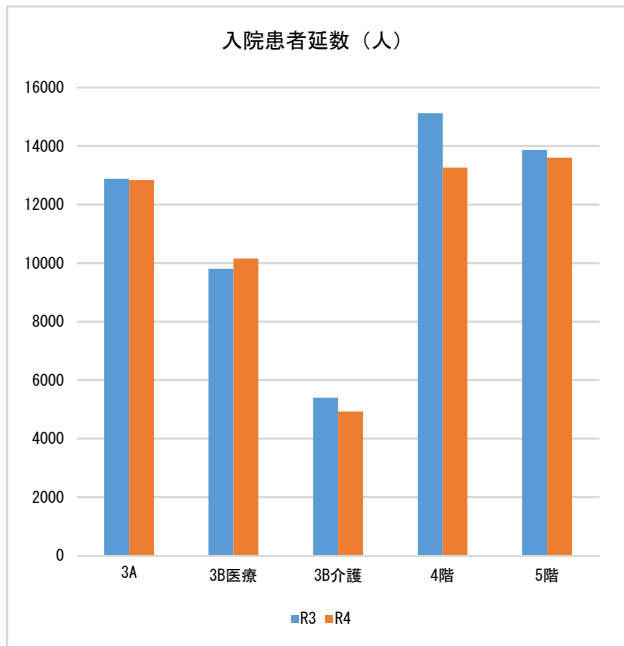
(2) 外来

- ・ 外来収益は、PCR検査等により診療単価は前年度に比べてほぼ同額となったが、患者延数が581人減少したことにより全体で311万7千円減少した。
- ・ 患者延数は、前年度に対し581人の減少となったが、小児科には小児科医の着任により969人増加したため、他の診療科においても患者数増に取り組む必要がある。

	外来収益 (千円)		患者延数 (人)		診療単価 (円)		一日平均患者数 (人)	
		対前年		対前年		対前年		対前年
内科	170,545	6,187	14,209	▲65	12,003	489	58.5	▲0.5
外科	22,914	▲8,251	2,463	▲306	9,303	▲1,952	10.1	▲1.3
整形外科	19,480	63	5,173	▲448	3,766	312	21.3	▲1.9
小児科	16,518	12,452	1,674	969	9,868	4,100	6.9	4.0
婦人科	632	▲321	121	▲20	5,224	▲1,533	2.9	▲0.5
精神科	108,979	4,569	13,929	▲162	7,824	414	57.3	▲0.9
耳鼻科	2,438	▲162	456	▲55	5,346	258	9.1	▲1.3
歯科	34,391	▲1,855	3,437	▲531	10,006	871	14.1	▲2.3
訪問リハ	2,637	▲496	447	▲40	5,899	▲534	1.8	▲0.2
通所リハ	28,091	2,735	3,063	146	9,171	478	13.0	0.9
全体	390,523	▲3,117	45,336	▲581	8,614	41	186.6	▲3.1

※その他に脳神経内科などがあるため、内訳の合計と全体は一致しません。

【参考②】患者数・診療単価の推移



3 費用の状況

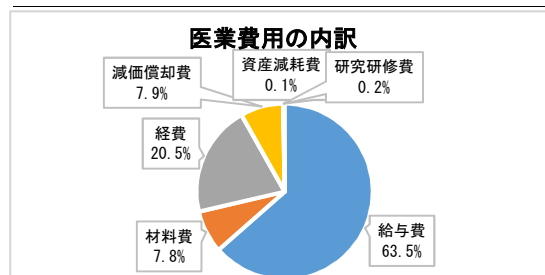
- ・ 給与費は、職員の増員により給料が増加した。また、救急医療機関勤務臨時手当（看護職員処遇改善）の影響により手当が増加したこと等により、全体で2,340万2千円増加した。
- ・ 経費は、重油価格高騰の影響により光熱水費（1,501万3千円増）と燃料費（291万7千円増）が増加したが、新電子カルテ導入に係る入札減の影響により保守委託料が減額（3,105万9千円減）し、全体で606万5千円減少した。
- ・ 減価償却費は、前年度の電子カルテシステム導入の影響により全体で4,743万6千円増加した。
- ・ 資産減耗費は、前年度の電子カルテシステム等の除却の影響により、全体で1,079万円減少した。

（単位：千円）

	令和4年度	令和3年度	対前年
医業費用	2,240,124	2,182,481	57,642
給与費	1,423,106	1,399,704	23,402
材料費	175,818	172,875	2,943
経費	459,014	465,079	▲6,065
光熱水費	60,514	45,501	15,013
燃料費	35,832	32,915	2,917
消耗備品費	15,253	6,609	8,643
委託料	269,290	300,349	▲31,059
減価償却費	176,903	129,467	47,436
資産減耗費	1,381	12,171	▲10,790
研究研修費	3,902	3,185	717
医業外費用	110,660	140,212	▲29,552
特別損失	0	0	0
合計	2,350,784	2,322,694	28,090

主な増減の要因

給料+10,684、職員手当+3,535、法定福利費+6,736
 薬品費+7,370、診療材料▲3,213、医療消耗備品▲1,145
 光熱水費+15,013、燃料費+2,917、消耗備品+8,643、委託料▲31,059
 電気料金+14,785
 灯油+2,764
 1階2階LED照明灯+8,239
 検査委託▲6,583、医療機器保守▲3,958、コンピュータ保守▲12,114
 機械器具+46,287
 固定資産除却費▲10,790
 図書費+243、研究雑費+491
 企業債利息▲3,186



4 資本的収支の状況

- ・ 令和4年度は、企業債、国庫補助金、県補助金を活用し、老朽化した移動型デジタル式X線透視診断装置等を最新の機器に更新し、撮影時間の短縮による患者負担の軽減と質の高い医療の提供を図った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金962万3千円を活用し、外来待合ロビーチェアなど新興感染症に対応するための設備を整備した。
- ・ 鳥取県医療施設等設備整備費補助金1,903万円を活用し、へき地医療拠点病院としての機能を維持するために必要な医療機器を整備した。

（単位：千円）

	令和4年度	令和3年度	対前年
資本的収入	123,586	383,322	▲259,736
国・県・町補助金	31,214	39,095	▲7,880
企業債	10,700	263,100	▲252,400
他会計負担金	40,321	39,546	775
固定資産売却収入	0	1,950	▲1,950
一般会計繰入金	41,351	39,632	1,719
資本的支出	252,422	494,538	▲242,116
建設改良費	45,666	296,379	▲250,713
企業債償還金	206,755	198,159	8,597
貸付金	0	0	0
差引	▲128,835	▲111,216	▲17,619

主な建設改良費（税抜き）

移動型X線透視診断装置 8,130千円
 上部消化管ビデオスコープ 3,310千円
 大腸ビデオスコープ 3,735千円
 システム生物顕微鏡 795千円
 コンビオープン 1,850千円
 外来待合 ロビーチェア 8,500千円
 遠隔画像診断システム 2,996千円
 1階及び2階LED照明灯設置工事 3,450千円

5 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目	令和4年度	令和3年度	対前年
固定資産 計	3,071,102	3,212,464	▲141,363
現金預金	181,815	408,061	▲226,246
未収金	384,908	350,599	34,309
貸倒引当金	▲3,046	▲3,046	0
貯蔵品	18,183	16,188	1,995
その他流動資産	0	0	0
流動資産 計	581,861	771,803	▲189,942
資産 合計	3,652,962	3,984,267	▲331,305
企業債	2,319,690	2,559,637	▲239,947
リース債務	29,356	35,236	▲5,880
退職給付引当金	0	0	0
固定負債 計	2,349,046	2,594,873	▲245,827
一時借入金	200,000	150,000	50,000
企業債	250,647	206,755	43,892
リース債務	5,775	5,670	105
未払金	78,945	370,892	▲291,947
賞与引当金	96,179	94,380	1,799
その他流動負債	12,731	7,406	5,324
流動負債 計	644,277	835,104	▲190,827
繰延収益 計	362,326	341,909	20,417
負債 合計	3,355,649	3,771,887	▲416,238
資本金 計	981,363	940,012	41,351
剰余金 計	▲684,050	▲727,632	43,582
資本 合計	297,313	212,380	84,933
負債資本 合計	3,652,962	3,984,267	▲331,305

【参考③】資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づき算定した資金不足比率については、次のとおりです。

資金不足比率 3.6%
(令和4年度)

[計算式]

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業規模}}$$

<資金の不足額>

$$\begin{aligned} & \text{流動負債} + \text{建設改良費以外の} \\ & \text{企業債残高} - \text{流動資産} \\ & = 62,417 \text{ 千円} \end{aligned}$$

<事業規模>

$$\text{医業収益} = 1,716,097 \text{ 千円}$$

資金不足比率の概要

資金不足比率とは、公立病院や下水道などの公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すものです。経営健全化基準は20%です。

6 キャッシュフロー計算書

- 令和4年度の期首残高には、令和3年度に完了した建設改良費の未払金約3億円の資金を含んでいる。また、平成30年度より、年度末の資金残高不足に対応するため市中金融機関から一時借入れを行っている。令和4年度は2億円の借入れを行った。

【参考④】現金預金の残高と一時借入金の推移

(単位：千円)

	令和4年度	令和3年度
期首残高	408,061	109,582
業務活動によるCF	▲153,896	434,467
投資活動によるCF	38,129	▲209,467
財務活動によるCF	▲110,479	73,479
期末残高	181,815	408,061

(単位：千円)

年度	現金預金	一時借入金
平成29年度	82,616	0
平成30年度	75,993	50,000
令和元年度	37,215	100,000
令和2年度	109,582	180,000
令和3年度	408,061	150,000
令和4年度	181,815	200,000

【参考④】現金預金の残高と一時借入金の推移

